

会議の概要

令和5年度 第2回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 玉井小学校学校運営協議会

日 時：令和5年6月14日（水）16:30～18:00

場 所：玉井小学校 体育館

（進行：玉井小教頭 佐藤 史浩）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

皆さん、こんにちは。午前中からオープンスクールの開催本当にありがとうございました。それは、令和5年度玉井小学校・玉井幼稚園 学校運営協議会、第2回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を始めます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会 教育長 渡辺 敏弘）

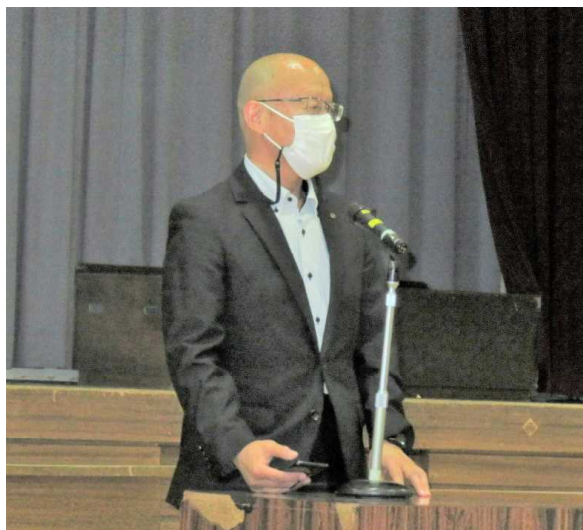
皆さん、改めましてこんにちは。今日は、午前中の幼稚園の保育参観、午後の小学校の授業参観、分科会等から引き続いてCS委員会にご出席いただきありがとうございます。

本日の委員会については、今「開会のことば」にもありました通り、玉井幼稚園・玉井小学校に特化した学校運営協議会ということではありますけれども、当然それはおおたま学園としての課題解決にもつながるものと思っています。

今回の玉井小学校の学校運営協議会では、この会に小学生が参加することは難しいので、その代わりに子どもたちが学校の活動をどう受け止めているのか、どう思っているのかをアンケートという形でまとめています。この中身をフラットな気持ちで認め、そこから熟議をスタートしていただきたいということです。どうしても私たち大人は、そういった子どもの考えを前にすると、「それはね」とか「でもね」とかいう気持ちが出てきてしまうわけですが、今回は子どもたちを中心に据えての話し合いにしたいと思っていますので、子どもたちの考えや思いを大切にしながらこの後の話し合いを進めていただければ幸いです。

そして、このCS委員会の熟議の中で、当然何かしらの解決策や方向性を見い出せばそれにこしたことはないのですが、たとえ解決策は見つからなくても、自由な発想で発言をしていただきたいと思います。そういう中でいつしか解決策を見つけ出せばいいと思っています。

本日は限られた時間の中ではありますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。



3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ (おおたま学園CS委員会会長 矢吹 吉信)

皆さん、改めましてこんにちは。また、お忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。玉井幼稚園・玉井小学校のオープンスクールということで、幼稚園、小学校の先生方には本日を迎えるに当たって、いろいろな準備等本当にお疲れさまでした。今日は、先生方の頑張りを朝から一日中感じることができ、非常に心が癒やされました。子どもたちの笑顔を見て私も笑顔になることができました。毎日本当に忙しいとは思いますが、先生方に笑顔になっていただければ、子どもたちも笑顔になれるのかなと思いました。今日はオープンスクールのためにいろいろな準備ありがとうございました。

これから玉井幼稚園・玉井小学校に特化したお話があると思います。大玉の未来を担う子どもたちのために、一丸となって熟議を進めていければと思いますので、限られた時間ではありますが、お付き合いいただければと思います。よろしくお願いいたします。



4 玉井小学校・幼稚園出席者自己紹介

本日参加した玉井幼・小の教職員が自己紹介を行う。

5 検討方法・課題の確認

(1) 協議の進め方について (玉井小学校 教頭)

① テーマについて

学校・園、家庭、地域が協力して玉井の子どもたちを育むという視点を基に熟議する。

< 2つのテーマ >

- | |
|----------------------------|
| 1 自己マネジメント力を高める取組はどうあるべきか |
| 2 自分で考え、判断する力を育てる取組はどうすべきか |

② テーマについての協議

- 考えたことや思ったことを付箋に書き込む。
テーマ1 … 赤付箋 テーマ2 … 青付箋
- グループ全体で協議
- 「幼稚園・小学校ができること」、「家庭ができること」をまとめる。

③ グループで協議したことの共有化

(2) 玉井小学校・玉井幼稚園の教育活動並びに本日のテーマについて

① 校長／園長より (玉井幼稚園長・玉井小学校長 佐藤 則之)

本日の概要については教頭からの説明の通りです。本年度のおおたま学園CS委員会の方針を改めて確認してみると、

オープンスクールの際の学校運営協議会の熟議においては、可能な限り児童・生徒も参加し、子どもたちの意見も取り入れるなど、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それに基づいた協議の活性化を目指す。

というものがあります。これは、今年度新たに与えられた課題であると私たち校長は捉えています。昨年度大玉中学校（学校運営協議会）で生徒会の子どもたちが熟議に参加し、「ああなるほど、こういうことなんだな」と私は大変参考になりました。

こういうところからスタートしていると思いますが、最初は小学生も熟議に参加できるのではないかと考えていたのですが、ハードルが高いところがたくさんあり、先程教育長さんからもご紹介いただきましたが、子どもたちにアンケートをとってみることにし、集約結果を基に熟議をしていただくことにしました。

我々は、学校の教職員として子どもたちにとってよかれと思い、教育活動を行っています。幼稚園でも小学校においても、「子どもたちにとってこれはいいはずだ」と思ってやっているのですが、子どもたちからきちんと評価をもらっていないという現実もあります。厳しい言い方をすれば、本当に子どもはそれでいいと思っているのだろうかということです。

それで今回視点をちょっと絞らせていただいて、チャレンジタイムとチャレンジデーについて子どもたちがどう思っているのかアンケートをとりました。それが要項の6ページからになります。これを基に本校の子どもたちのためになっているのか考えたり、また、さらにグレードアップしていくにはどうしたらいいか、そういったところで今回ご参会いただいている皆さまからいろいろとお知恵を頂戴して、さらに子どもたちのために改善していきたいと思っています。また、幼稚園でも先生方と話している中で、今日の2つ目のテーマを設定しました。

この後、小学校と幼稚園それぞれの担当からご説明申し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。

② テーマ1「自己マネジメント力を高める取組はどうあるべきか」について

（玉井小学校 和田 佳子）

ア チャレンジタイム（毎週木曜日13：25～13：40）

○ 子どもたちがワークシートを用いて、自分の1週間の勉強について振り返る時間

- ・ 例えば、「自分の力で早起きできた」、「朝ごはんを食べてから登校した」、「動画やゲームをする時間（帯）をコントロールできた」等のように、生活全般について振り返るものになっている。

イ チャレンジデー

○ 週末は、担任からの宿題ではなく子どもたち自身で取り組む内容を決めて実行しようというもの

- ・ 苦手な学習の復習、テストに向けての予習 → ノートにまとめる
- ・ 読書
- ・ 家族といっしょに料理
- ・ 釣り
- ・ 工作
- ・ 家族とサイクリング
- ・ 月～金にできないことにチャレンジ



アンケートの集約結果から

- ・ 総じて「よい」反応であったが、子ども・教職員共にまだまだ改善の余地があると感じている。
- ・ ゲーム、動画、SNS等子どもたちを取り巻く環境には多くの誘惑がある。貴重な子どもたちの成長の過程をこういったものに奪われてしまうことが多い。



子どもは大人や教職員の言うことを全て聞いてくれるわけではない。だからこそ自分で自分の時間をコントロールできる自己マネジメント力をつけていなければならないと考えている。

本校で行っていることの他にどんなことができるかを話し合いたい。



③ テーマ2「自分で考え、判断する力を育てる取組はどうすべきか」について

(玉井幼稚園副園長 後藤 弥和子)

- 幼稚園では教育目標の達成に向けて3つの重点目標を設定し実践している。そのうちの1つが「自ら考え、すすんで行動できる子ども」となっている。日々の遊びの中では場面を捉えて環境構成をしたり、掲示を行ったりしている。
- 現在の子どもたちの様子(=課題)
 - ・ 先生や保護者からの指示待ちが多い。
 - ・ 自分で「やってはだめ」と分かっているのに、「〇〇くんが言ったからやった」と人のせいにする傾向がある。
 - ・ 自分の要求が通らないと、我慢できなくて泣き叫んだり怒ったりする。または先生や友だちを構おうとする。
- 3年保育であるので、学年、個人の発達段階に応じて援助しているところである。この「自分で考え、判断する力」は小学校に行っても続いていく大事な姿である。自分で考え、自分でやっていいかどうか判断し、決めたり普通に行動したりできるようになるためには、さらにどのような取組をしていけばいいのか、皆さんのご意見を伺いたい。



(進行) ではこれから分科会に移ります。テーマごとに20分と区切ってあるわけですが、各班ごとに配分を変えて構いません。全体会を17時35分から始めたいと思いますのでよろしくお願いします。

6 グループ別協議

※ 各グループごとに進行



7 グループ別協議内容の共有

① グループ別で熟議したことの発表

(進行) それでは全体会に移ります。1班からよろしくお願いします。

1 班

- (子どもの育ちとして考えると) テーマ2の「自分で考え、判断する力」から始まり、テーマ1の「自己マネジメント力」につながっていくのではないかという話になった。

<テーマ2について>

- 小さい頃から、与えられたことであっても、今何のためにそれをやるのか考える時間が必要である。納得した上で取り組んでいけると、自分で責任を持って積極的に活動に当たれるのではないか。
- 「やりたいことをやってみよう。」と言っても、何をやりたいか分からないという子もいる。
→ 考える場を与えることが必要

<テーマ1について>

- 家庭とか家族の協力を得られないとできないこともたくさんある。子どもたちがやりたいことをやれるかどうかは環境や条件によるところが大きい。
- いつまでどんなことをやりたいのか「やりたいことリスト」を作ってみる。それを基に家族で話し合ってみる。(「これはできる。」「これは難しい。」「〇〇ならできる。」等)
- 週末に家庭でできないことがあっても、地域(大人、ボランティア等)が都合をつけてできるよう手助けできるといいと思う。→ 子どもがしたいことと大人がしてあげたいことのマッチング



2 班

- テーマ1、テーマ2について話し合う中で、「チャレンジして失敗したこと」をどのように生かすかが大事なのではないかという話が出た。

<テーマ1について>

- 子どもたちが、何のために自己マネジメント力を身につけるかを分かっている必要がある。
→ 考えさせることが大事
- 自分で頑張る気持ちを持つためには、自己肯定感がないと難しい。
- チャレンジデーについて
 - ・ 教師がいくつかの例を話すことによって、「これならできそうだ」と思い計画を立てることができる。そんなことを繰り返すことによって、2学期以降は本格的に自力で考えられるようになるのではないか。
 - ・ 家庭の協力が必要である。親子でいっしょに取り組む機会を持ってほしい。(発達段階で今やると効果的なことがあるので…)



<テーマ2について>

- ・ 小さい頃から自分で選択する場をつくる。
- ・ その行動について考えさせる機会を作る。
- ・ 得意、苦手ということではなく、どんなふうにしたらできるのか考えさせる。

3 班

<テーマ1について>

- キーワードは3つ

「家庭の協力」… 家庭に子どもたちがやっていることを知らせることで協力を得られるし、家で
の時間割も作れる。いっしょに計画を立て、できたら褒めるようにする。

「大きな目標」「小さな目標」… 身近な将来の夢を達成
するためには、今自分はどんなことをしたらいい
のかを考えられるといい。→ 目標設定できるの
ではないか。

「非認知能力」… 自分をコントロールする力。他者と
の関わり、生活体験

<テーマ2について>

- キーワードは「任せてみる」

- ・ 自己決定の機会を増やしあまり手を出さない。
- ・ 子どもたちが考える時間を確保する（教師が先に先
にと考えない）
- ・ 家庭でも同様にしてもらう。保護者にそれができたかどうかを子どもと会話をしながら褒めて
もらったり、アドバイスをもらったりとかできるようにする。



4 班

<テーマ1について>

- チャレンジタイムは自分で考える力がつくよい時間である。
- 何もないところから、一から考えるというのはまだ難しい。
→ それができるようになるような手立て（何をやっていいのか分からない子の支援のために）
 - ・ 選択肢を与える。
 - ・ 学年で、「今週は運動面をやってみよう」「学習面をやってみよう」とかテーマを決めてみる。

- チャレンジデーについて

- ・ 週末であるので、保護者の協力が不可欠である。（特に低
学年）
- ・ 学習も大事であるが、その基盤である生活習慣を見直して
ほしい。家でも学校でもいいのだが、自分の行動や時間を振
り返って、一つの円グラフに表してみるとかして自分を知る
機会を設けることが必要である。

<テーマ2について>

- 幼稚園生ならではの自由な発想を大事にしてあげたい。失敗
を恐れなくてやってみるということを大切にあげたい。
- 自由な中でもあえて制限を設けてみたり、課題を与えたりし
て、その中で自分が何ができるか判断する力を徐々につけていくとよいのではないかな。
- 失敗すること（機会）も子どもたちの学びにとっては大事なことである。家庭では、失敗に対す
るフォローだったり、大人の対応をお願いしたい。
- 地域のスポーツ少年団が充実しているので、子どもたちに入ってもらって、地域の方にもその姿
を見ていただけるといいのではないかな。



5 班

＜テーマ1について＞

- マネジメントカード、チャレンジカード … いいところは取り上げて、それを褒めたり紹介したりする。
- ステップを踏んだり、選択肢を与えたりすると取り組みやすくなる。
- 先生も子どもと一緒に何かに取り組むようにする。
- 親も一緒に進めていく。そうすることで子どもの意識も変わるのではないか。

＜テーマ2について＞

- 大人は先取りしすぎない
→ たとえ失敗しても、具体的に聞いてあげて考えさせるようにする。怒られ過ぎてしまうと、怒られないためにどうしたらいいかと考える子どもができてしまう。



6 班

＜テーマ1について＞

- 自己マネジメント力を高めるために、まずは褒めること、認めるということが大切。
- 学校でできること
 - ・ やるべきことは何か、どんなふうにやったらいいのか等を明確にしておくこと
 - ・ 子ども同士、他学年・学年間の共有、保護者との情報共有等の活動

＜テーマ2について＞

- 幼稚園ではコロナのこともあって保護者同士の関わりがとても薄くなったという実態がある。
- 保護者の協力が必要である。(テーマ1についても言える)
- 続けていくには楽しみながら活動することが大切である。



7 班

＜テーマ1について＞

- 学校でできること
 - ・ 何をしたらいいのか分からない子もいるので、子どもたちの中で発表する機会を持つ。
→ 全校集会等で全校生が共有する場をつくることにより、「自分もやってみたい」というふうに意識も変わるのではないか。
 - ・ きちんと評価すること (学校、家庭)
- 家庭でできること
 - ・ 家庭の負担が大きいと長くは続かないので、子どもたちが日頃から行っていること (例えばお手伝い等) を親子でいっしょにやってみる → 人の役に立つ経験が自己肯定感につながる → 継続できる



<テーマ2について>

- 失敗できる環境づくりが大切
 - ・ 親も教員も「これをしたら失敗する」と、先取りをして話してしまうことが多い。子どもに任せたり、見守ったりしていれば、子どもたちも「自分で頑張ってみよう」という気持ちを持ち、そしてそれが信頼される行動につながっていくのではないかと。

8 班

<テーマ2について>

- 幼稚園教育という基盤があってこそその小学校教育である。
- たとえ子どもたちが小さくても自己決定や判断ができるように、そのためには（安全な）失敗をする経験も大切である。（答えを出してしまうような先回りはしない）
 - ・ チャンスや経験が積み重ねられていくこと（体験活動）
 - ・ 子どもたちの「チャレンジしたい」という気持ちを摘み取ってしまわないよう大事にすること
- 子どもたちは、家庭という小さな社会から幼稚園・学校という広い社会を経て、大きな一般社会に出て行くので、家庭教育の中では子どもをサポートするという姿勢が大切である。



<テーマ1について>

- 地域や家庭でできること
 - ・ 子どもの発信を受けて共に考え、そして経験を積み重ねていく機会をつくっていく。いっしょに考えていくこと
- 学校でできること
 - ・ コミュニケーションのとり方の例を示す。
 - ・ 親は忙しい中で子育てをしているので、そこを汲みながら、こんなものはどうか、このようにしてはどうか等の（強制的ではない）具体例を示すとよい。（家庭としてありがたいと感じるのでは？）

8 講 評

（おおたま学園CS委員会会長 矢吹 吉信）

講評ということなのですが、今日の振り返りという形でお話しさせていただきます。

冒頭の挨拶でも申しましたが、先生方本当にお疲れさまでした。それから、教育委員、CS委員の皆さま、午前9時からの参加で本当にお疲れさまでした。

今日の熟議の協議内容は、最初はちょっと難しいのではないかと感じていたのですが、各班共に活発な意見交換がなされており、こういうテーマ設定もいいと思いました。

本日の皆さんの活発な熟議によって私の考えが変わったところがあります。実は6月下旬に中学校の職場体験があり、直売所でも依頼を受けています。これまでですと、ある程度私が（仕事の内容を）考えて、その後子どもたちに活動してもらっていたのですが、子どもたちに考えさせて職場体験をやらせてみたらいいのではないかとヒントをいただきましたので、ぜひやってみようと思いました。ありがとうございました。

テーマ1、テーマ2について考えると、「夢や希望」ということばが出てきます。私たち大人がお手本とならなくては行けないと、今日参加させていただいて感じたところです。また、オープンスクールや学校運営協議会等で先生方とお話をさせていただき、自分自身が勉強になって学びの多い時間を共有させていただきました。皆さん、ありがとうございました。

9 御礼のことば

(玉井小校長・幼稚園長)

本日は玉井幼稚園、玉井小学校の子どもたちのためにいろいろとお知恵をいただきまして、本当にありがとうございました。

目の前の子どもたちが大人のアプローチの仕方や環境設定によって、目の色を変えて取り組んでいく姿を目の当たりにすると、よかったなあと思うのが私たち教員です。

今日いろいろいただいたお知恵をこのままにせずに、ぜひアクションとして、幼稚園も小学校でも私たち教職員が動いていきたいと思います。今後もいろいろとご指導、ご鞭撻をいただけましたらありがたいです。今日は本当にありがとうございました。



10 閉会のことば

(おおたま学園CS委員会副会長 館下 愛理)

皆さん、今日は午前中から本当にお疲れ様でした。最後の協議会では、先生方とたくさんお話ができて楽しかったです。ありがとうございました。これで令和5年度大玉村立玉井幼稚園・玉井小学校学校運営協議会並びに第2回CS委員会を終わります。

